

運動部活動に所属する生徒の

部活動参加の動機づけがライフスキル獲得に与える影響

教育デザインコース 保健体育領域
佐藤 浩大

<はじめに>

ライフスキルの形成は危険行動を防止することが可能であると考えられている。本研究では、自己決定理論に基づく運動に対する動機づけ尺度を用いて、回答の特徴から群分けを行い、各群のライフスキル尺度得点を比較することによって、部活動に対する動機づけがライフスキルの獲得にどのように影響しているか検討することとした。

<方法>

運動部活動に所属している高校生81名(男子40名,女子41名)に、2つのアンケート調査を行った。1つは、自己決定理論に基づく運動に対する動機づけ尺度であった(藤田ら,2010)。この尺度では、「外発的動機づけ(以下外発)」「内発的動機づけ(以下内発)」「同一化的調整(以下同一化)」「取り入れ的調整(以下取り入れ)」という4つの動機づけを測ることができる。そこから、複数の動機づけで構成されるスタイルについて群分けするため、クラスター分析(Ward法)を行った。もう一つは、大学生アスリート用ライフスキル尺度(島本ら,2013)であった。クラスター分析から得られた群のライフスキル獲得の特徴を見るため、一元配置分散分析を行い、それぞれの群の平均値の差を検討した。主効果が認められた場合は、多重比較を行った。有意水準は5%とした。

<結果および考察>

1. 自己決定理論に基づく運動に対する動機づけ尺度をもとにした群分け

①高動機付けスタイル(同一化・内発が高く、取り入れも高い)、②高自律スタイル(同一化・内発の自律性の高い動機づけが相対的に高い)③低自律スタイル(高自律スタイルより低い値を示す傾向)④取り入れ・外的スタイル(取り入れ・外発が高い)の4つの群に分けられた。

2. 各群とライフスキル獲得の関連性

表 部活動参加の動機付けとライフスキルの関連性の検証結果

	1:高動機付け (n=24)		2:高自律動機付け (n=13)		3:低自律 (n=23)		4:外発・取り入れ (n=17)		F値	多重比較
	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD	平均値	SD		
ストレスマネジメント	2.88	0.58	3.37	0.77	3.00	0.68	2.69	0.50	3.02*	4<2
目標設定	2.55	0.58	2.77	0.63	2.50	0.79	2.19	0.71	1.86	
考える力	2.82	0.39	3.12	0.38	2.92	0.54	2.79	0.40	1.65	
感謝するところ	3.42	0.49	3.73	0.53	3.24	0.48	3.18	0.40	4.08**	3<2 4<2
コミュニケーション	3.25	0.45	3.60	0.46	3.01	0.65	3.09	0.47	3.84*	3<2 4<2
最善の努力	2.98	0.60	3.04	0.34	2.73	0.48	2.66	0.38	2.55	
責任ある行動	3.18	0.57	3.40	0.45	3.07	0.48	2.91	0.36	2.76*	4<2
謙虚な心	3.01	0.42	3.19	0.46	2.86	0.56	2.87	0.45	1.65	
体調管理	2.49	0.56	2.73	0.55	2.46	0.57	2.62	0.55	0.84	
全体	2.95	0.31	3.22	0.34	2.86	0.24	2.78	0.29	3.54*	1<2 3<2 4<2

群ごとの平均値を比較した結果、高自律スタイルがライフスキルの獲得に最も関連していた。また、「ストレスマネジメント」、「感謝する心」、「コミュニケーション」、「責任ある行動」において、高自律スタイルが取り入れ・外発スタイルの値より有意に高い傾向がみられたため、部活動に取り組む際の、自律性(内発・同一化)の動機付けの高さが、ライフスキルの獲得に大きく関連していることが示唆された。

<まとめ>

部活動への取り組む姿勢として、①部活に肯定的要因を持ち取り組むこと、②他者との関わりを積極的に行うこと、③他者へ感謝の気持ちを持つこと、④自らの行動を反省し次回に活かすこと、の4つがライフスキルの獲得に影響を与えることが示唆された。

今後の課題として、調査する高校を増やし、その学校の特徴と動機付けやライフスキル獲得との関連性の傾向を見ていきたい